

備前市施策評価シート

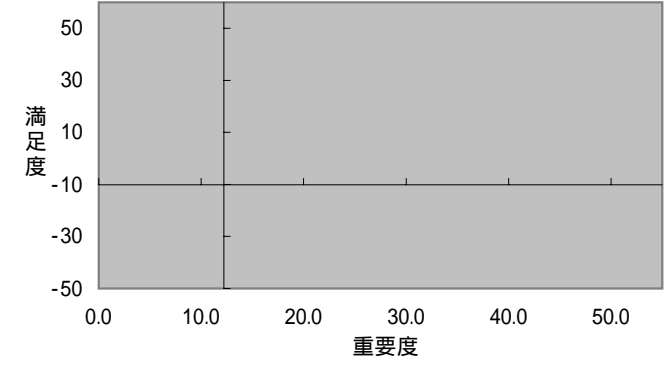
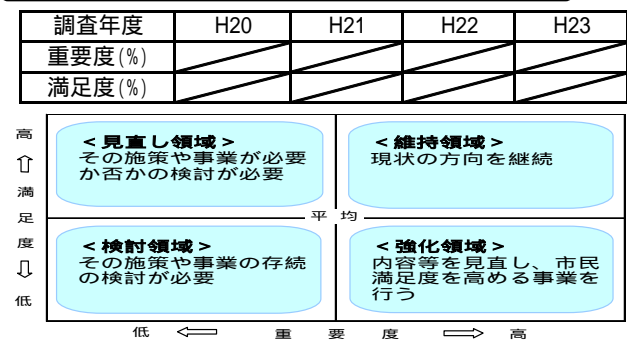
(平成22年度事業)

施策名 (小項目)	高等学校	コード	03-01-03	作成者	役職 教育総務課長
		氏名	竹中史朗	電話	0869-64-1802
		このシート作成に要した時間		4.0 時間	

備前市総合計画の内容から記載する

政策の体系	基本目標(大項目)	地域文化と人が輝くまちづくり
	基本施策(中項目)	未来を支える人材を育むまちづくり
対象と目的 (誰のために、何のために)	多様なニーズや目的を持った生徒に対応し、生徒の特性に応じたきめ細かな教育を提供するために、ソフト・ハードの両面での教育環境の充実を図る。	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	片上高等学校が担ってきた「勤労青年に対して高等学校教育を施す」という役割は、次第に薄れてきている現状がある。近年、入学者数は増加傾向にあるが、中途退学者の割合も増加傾向にある。多様な教育的ニーズをもつ生徒を受け入れてきているが、中途退学者の減が課題である。そのため、生徒一人一人に応じたきめ細やかで多様な教育を提供するとともに、教育環境を整備する等、学校へ人的・物的支援を行う必要がある。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある学校づくりの推進 個に応じた教育の充実 	

市民意識調査による施策の重要度・満足度



調査結果に対するコメント、市民の反応等
 [調査対象でない施策は、市民の反応等]
 全校生徒に占める市内の在学生の割合が低くなっている。市民の関心も高いとはいえないが、東備地域唯一の夜間定時制高校として大きな役割を果たしている。

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値
		H20	H21	H22		
成果指標 定員充足数	目標	%	60.0	60.0	60.0	H23 65.0
	実績	%	61.9	62.5	63.8	H28 70.0
	達成率	%	103.2	103.1	106.3	-
	ベンチマーク					-
参考指標 入学時生徒数に対する卒業時生徒数の割合	目標	%	85.0	85.0	85.0	H23 85.0
	実績	%	47.0	53.0	58.0	H28 85.0
	達成率	%	55.3	62.4	68.2	-
	ベンチマーク					-
参考指標 在校生一人当たりの図書費・教材備品	目標	円	1271.0	1313.0	1170.0	H23 1200.0
	実績	円	1313.0	9441.0	1721.0	H28 1500.0
	達成率	%	103.3	719.0	147.1	-
	ベンチマーク					-
参考指標	目標					H23
	実績					H28
	達成率	%				-
	ベンチマーク					-

施策構成事務事業の評価

施策を構成する事務事業	事務事業評価結果 A~E (高~低)	細事業	事業分類	事業費等(単位:千円,人)										施策への貢献度	
				平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度		
				直接事業費	人件費	人工数	直接事業費	人件費	人工数	直接事業費	人件費	人工数	当初予算(直接事業費)		
1	定時制高等学校管理運営事業	B	定時制高等学校管理運営事業	単市	9,716	6,120	0.83	8,989	7,272	0.82	10,918	707	0.11	10,647	-
2	定時制高等学校教育振興事業	B	電算機借上事業	単市	3,018	0	0.00	3,018	650	0.07	3,018	0	0.00	0	-
			教材備品整備事業	補助	76	0	0.00	1,044	0	0.00	116	0	0.00	114	-
			全国大会出場補助事業	単市	14	0	0.00	93	0	0.00	100	0	0.00	100	-
			図書整備事業	単市	54	0	0.00	60	0	0.00	60	121	0.01	60	-
			就学奨励事業	単市	0	0	0.00	999	76	0.01	1,000	256	0.04	1,000	-
3	定時制高等学校運営支援事業	B	県高等学校教育研究会負担金事務	単市	18	0	0.00	18	0	0.00	17	0	0.00	18	-
			全国定通校長会費事務	単市	9	0	0.00	6	0	0.00	6	0	0.00	6	-
			全国定時制通信制高等学校長定通部会費事務	単市	0	0	0.00	3	0	0.00	3	0	0.00	4	-
			県高等学校定時制通信制教頭協会費事務	単市	10	0	0.00	10	0	0.00	10	0	0.00	10	-
			全国教頭会費事務	単市	5	0	0.00	5	0	0.00	5	0	0.00	5	-
			県教頭会費事務	単市	2	0	0.00	3	0	0.00	3	0	0.00	3	-
			定時制高等学校教育振興会負担金事務	単市	0	0	0.00	70	0	0.00	70	0	0.00	76	-
			全国高等学校給食研究協議会分担金事務	単市	0	0	0.00	1	0	0.00	1	0	0.00	1	-
			高等学校体育連盟負担金事務	単市	0	0	0.00	25	0	0.00	26	0	0.00	46	-
			教科書給与補助事業	単市	315	0	0.00	301	0	0.00	336	0	0.00	365	-
			部活動補助事業	単市	20	8	0.00	20	0	0.00	20	0	0.00	20	-
			高等学校運営事業	単市	145	70	0.01	103	0	0.00	45	73	0.01	47	-
校内研修支援事業	単市	0	31	0.00	0	10	0.00	0	43	0.00	0	-			
				この施策に費やした資源(単位:千円,人)											
				平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度		
				13,402	6,229	0.84	14,768	8,008	0.90	15,754	1,200	0.17	12,522		

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果

施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由(なぜ、そのランクと評価したのか)	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	4	「定員充足数」は就学意思を有する者の需要と充足数を表す指標として、「入学時生徒数に対する卒業時生徒数の割合」は苦学して卒業と言う成果を成し遂げた者の割合を示しており、妥当性がある。	
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か?	3	市内生徒の占める割合が低くなっている状況・厳しい財政状況の中、教育内容を充実させるための思い切った事業を打ち出すことができていない。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3	入学希望者は増加しているが、依然として中途で就学を断念するケースも増えている。卒業生で大学へ進学したケースもある。可能な限り人的・物的支援を増やし、個別ケースについての支援の必要がある。	
進行年度(H23年度)の取組内容(課題解決状況)		昨年度から、高校授業料無償化により生徒の授業料支払負担がなくなった。より学びやすい環境となりつつある。本年度は、生徒にとって学びがいのある学校を提供していくため、部活動や生徒会活動の充実をはかり仲間意識を高め、中途退学者減につとめる。	
翌年度(H24年度)の取組目標		定時制高等学校に対するニーズは全県的に高まっており、東備地域において不可欠な事業。施設面・人的な面で大きな改善は困難であるが、指導面での充実を引き続き図り、生徒にとって魅力のある学校経営をめざす。	
二次評価者コメント		定時制高等学校に対するニーズは全県的に高まっており、東備地域において不可欠な事業である。施設面・人的な面で大きな改善は困難であるが、指導面での充実を引き続き図り、生徒にとって魅力のある学校経営をめざす。	
役職 氏名	教育次長 竹中 史朗		
		基本施策への貢献度 3 中立	